夕刊
磐城新聞
十二月十四日發行

定價 一ケ月金五拾錢（郵稅[illegible]金六拾五錢）
廣告料 普通[illegible]金六拾錢 [illegible]金九拾錢 五號十二字詰一行 （場所指定[illegible]）
編輯印刷發行人 柏木[illegible]
發行所 磐城新聞社 [illegible]
電話五六四番
（日曜祭日翌日休刊）

原勝氏の童謠詩に就いて

島田忠夫

（四）

三

原勝氏の『童謠詩』は普遍妥當性の乏しき一つの『藝術』である。そこには力强き彼自體の迫力と『藝術』を感得するのであるが彼を分離したる『藝術』要約すればヂヤアナリズムとしての使命は到底果せぬ所の『藝術』である。それは彼の獨自なる個性を語り、また妥當性なき彼の純一さを價値づけるものであらう

さらに氏の近作を二三擧げてみる

山吹　原勝

山の池に
ひとり來て
遠い兄さのこと想つた
さくらも散つた
岸に
山吹の花がさかりよ
かすみの中に
搖れる山
あの徑を兄さは行つたよ
水に小石を
投げて
山吹の花へ顏を寄せた

上野公園

おもちやの露店
ならんでる
上野公園
日曜日
向ふの方では
パラシュート
はふり上げては
客を呼ぶ
そろそろ歩き
花の下

うすうさみしい
納屋のかげ
ひとり子守は
唄うたふ
雜木林の
上の月
夢のやうにも
曳くかすみ

芝にかげろふ
もえてゐて
マントを脱いで
あたたかさ
かすみの中の
寛永寺

白木蓮

春のゆふべの
しづけさに
白木蓮の
花がちる
白木蓮の
白いはな
日ぐれのうたに
消えかかる

これらの諸作では、奈何に彼の『藝術』が自然鑑賞と共に深みを加へて行くかが諒知さるるであらう『童心』を通して大自然の自由なる境涯に遊ぶ氏の心境にはあらゆる事象が一つの默禱でもある。また讃美でもある 斯くて吉江喬松氏の『初めて眼を開いて山河に接するやうな清新さ』であり、それが『童謠詩』としては極めて大切なる根本要素であることが考へられる

原勝氏の『童謠詩』は、さらに今後に於て一層の新展の精進の業績を示すであらう。その時、また更に予の新たなる批判と讃美の言葉は生るるのである

業餘吟

鈴木草人

○湯の宿の窓べに眺む夕霧の見ゆる限りは波荒立ちつ
○巖の上に夕早くともる電燈に潮ぞ吹きよす海あらびつつ
○回轉し始めたる機械の動力は大地を搖りて事務室にひびく
○この夜われ氣の狂ひたる夢を見つ眼覺めし後も心靜まらず

潮聲硯靜抄帳

十一月集

初冬の山風萱を吹きまくる　清宮文釜（下館）
韮粥に腹ぬくぬくと冬に入る
初冬や醉さめに知る水の冷
早起の下婢のさけびや初氷　片寄文狂
長尻のほとほりぬくし冬の蠅
窓かするうす日や菴の秋闌ける
命ある彩葉々々や山の秋　中曾根逸郎
等閑の菊そのまゝや十月盡
今朝久しや梢にのこる熟し柿

エネルギーと空間 (4)

大平秀之助

日光は地上の生物にとつて恩威並び無き惠みであるが、之等光や熱は物質に吸收せられて物質と化し、水分子等に作用して蒸發降雨等の自然現象を起させ、水力電氣の原動力となつて貴重なエネルギーを人類に貢献する

物質は電子より成り、電子は電氣を帶びた微粒子で其の速度眞空中の光の速度一秒三億米の近似値であるから、小さな物質にも實に莫大なエネルギーが含有せられてゐる。併し乍ら、それ等物質は、陽電核と電子とが電氣的に中和せる結果普通の狀態に於てはエネルギーを認められない。但し電子には電子波を伴ひ原子は特有のスペクトルを放射し、引力の作用がある。電氣は導体、光は物質と共に存する。金屬に光が當れば電子が飛出す。原子量の大なる物質、ラジウム、ウラニウム等は原子が崩壞し放射線と云ふエネルギーを放出する。僅少のラジウムでさへ長い時間に亘つて放出するエネルギーは實に膨しい量に達する放射線を出してラジウムは遂にそれより原子量の小なる鉛へと轉換する。地珠の内部はラジウムの樣な、原子量の大なる物質に依つて充滿せられてゐる

疑惑

村岡融

みんな歩いてゐた
みんな遊んでゐた
みんな腰掛けてゐた
うつすら明るい晩だつた
私は街角で考へてゐた
たうとうみんな本當の生活が
出來るやうになつたのだ
人間は元來働らく爲に生れて來たんではなく、生きる爲に働らくべく餘儀なくされてゐるんだから
これでいゝんだ
やつと公平な世の中になつたのだ
だがすこし變だな
女達の化粧が下手すぎて
男達の歩きつきに落ちつきがなさすぎる
なんだ、なにをぼんやりしてゐたんだろ
やッぱり第三日曜ぢやないか
たまにしかしない化粧と
たまにしか歩くことのない足が
そんなに洗練されてゐてはたまらない
どうもおかしいな
なぜみんな知らないんだろ？

燒跡に何の揭示や冬の月　みつ子

山北のはざまの雪の消えやらず、冬至に近くなれるこのごろ　島木赤彥

社會の今日

12月15日

△國學者落合直文逝く（明治三六）△軍艦滿洲除籍廢艦（昭和五）△蔣介石下野を聲明す（同六）△外貨評價委員會官制公布△國際聯盟十九國委員會で起草委員會決定の報告書並に決議案を可決す△政友會北信大會を富山市で開會△國民政府第三回中央執監委員會議開會（同七）

講談

幕末神風組

(77)

土生太郎作
高根秀浩畫

染香の行方（四）

一本のかんざし、それから何うして染香の行方を探知する事が得られよう。只染香が、神風組の本陣を脫け出したといふ事だけ位より外察することは出來なかつた

銀月へも、又家の方にも歸つて來ないと知つてから不安は又新しく深くなつて行つた

如何なる犧牲を拂つても染香を援け出さなければ義理が濟まないと、その全力を盡して見たのだが、今となつては悉く水泡である

珍らしく晴れた日だ

昨日の雨が、すつかり四邊を清淨なものにしてゐた

『あ、今日は水天宮の緣日だつたな——』

佐吉は、ふとそんな事を思つた

（さうだ、行つて見よう、家の中に閉ぢこもつてゐても、何の術もあるまい）

さう思ふと、それ以上ぼんやりしてゐる事は出來なかつた

『何處へ——常陸屋』

すつと立ちあがつた佐吉を見わけ乍ら中村が云つた

『ナニ、一寸思ふことがあゝる、出掛けて見たいと思つて……』

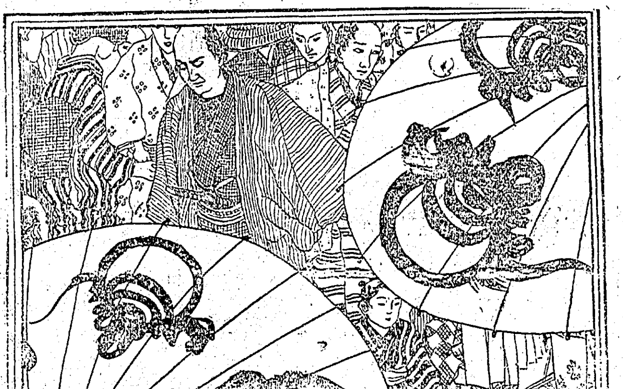
吃くやうに答へると、佐吉は玄關へ出て行つた、その後ろ姿が妙に淋しい

（ひよつとしたら……）

中村は妙な豫感に襲はれたので急いで身仕舞ひをすると、佐吉の後を追つた

佐吉の足はゆるやかであつた。ぢつと腕を組んで、うつむき加減に歩いて行く跡から、追ひすがるやうに中村が追つて行つた

が、中村はすぐ、佐吉の歩みのおそいのに氣付くと自分も速力をゆるめた



（何處へ行くのだらう？）

中村が不安に思ふほど、佐吉の樣子は變つてゐた。それは恰度夢遊病者か何かのやうであつた

（常陸屋、取りのぼせたのではあるまいか）

そんな事はないと思つても、餘り佐吉の樣子が變つてゐるので、中村は不審がらずにはゐなかつたのだ

『おや——？』

中村は思はず呟いた事だ

（何だ、水天宮ぢやないか）

佐吉は緣日商人の賑かな店の間を、本殿の方へ進んで行く。さうした事に無頓着な中村は始めて今日が水天宮の市日である事を想ひ出した。それと共に、染香が、口癖のやうに水天宮樣水天宮樣と云つて市日市日には、必ず參拜してゐた事を思ひ出したのであ[illegible]た

（さうか、それで水天宮へ願掛けおまゐりか）

中村は漸く得心が行つたやうに一人でうなづいた

佐吉は、まつすぐ參殿の前へすゝみ寄ると、他の多くの參詣人に混つて、何事か祈願するやうであつたが暫くして神前を離れると如何にも肩の重荷を下しでもしたかのやうに、その邊の境內を見て廻るのだつた

參殿の横手は割合に廣い空地だが、其處にあやし氣な見世物掛け小屋があつた

幾人かの男女が、ぽかんと立つて、毒々しい繪看板に見とれてゐる、その中に佐吉は割込むやうに入るとそのまゝ立つくしてゐるのだ

『チエッ！常陸屋今日は餘ッぽど何うかしてゐる』

中村が舌打ちした程だ

あたかも忘我の体の佐吉

それはどうしてこの男が、あの目から鼻へ拔ける程、頭のよい、そして素ばしッこい名負ふての手先と、誰が眼に見えよう

何か、目算あつての此の仕儀とは見えたが、中村は近寄つてその譯をただす事もならず、佐吉の平然とした姿とは打ち變り、頗る焦立たしい氣持ちで佐吉の樣子を注視し續けるのであつた

舊十一月十八日 金曜 乙卯 先勝 平 亢宿
新十二月十五日

諸判定應需
東京市本鄉區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部 神[illegible]館

▲一白の人 好き思案も浮ばず去就に惑ふ日開業移轉凶▲二黑の人 萬事縮小して冗費を省くに勉めらるゝが吉▲三碧の人 協力一致は過失を防ぎ利益を增すに至らん▲四綠の人 幸運に安んぜず萬全の策を講じ發途を謀れ▲五黃の人 渡るに橋なく險を侵して水を涉るが如き日▲六白の人 沈勇好く大事をも遂ぐべし但甘言に迷ふな▲七赤の人 七分の利ありて三分の損あり病厄盜難注意▲八白の人 畫策も功なく無策に等し普請造作移轉凶▲九紫の人 商賈みやう利の日他事は一切企てざるがよろし

四倉通信

◎。◎。◎。珠算講習終了 四倉町鷄鳴會主催中の珠算講習會は來る廿三日終了同日午後六時より四倉校に於て修業式を開催する筈

◎。◎。福羽訓導著任 此程退職した四倉校鈴木訓導の後任として去る十二日福羽至海訓導着任昨十三日午後三時より同校に於て歡迎會を開催した

◎。◎。東郷元帥像寄附 四倉町會議員並に四倉校職員諸氏は此程東郷元帥御像（價格四十五圓）を同校に寄附した

廣告

お正月が近づきました
ビクターマンス
特選レコードと優秀蓄音器
賣出し
特約店 金光堂時計店

忘年會
新年會
◎萬事御希望に副ふやう勉强して御奉仕致します
◎御通知下されば當方から御相談に參上仕ります
平町紺屋町
住吉屋本店
電話一五九番

全發聲
キング・コング
オールトーキー
二十世紀最大の驚異特作映畫
短期公開 十四日ヨリ『四日間』 毎日晝夜二回開演
邦畫 洋畫 平館

開業披露
小兒科專門 附內科
志賀醫院
平白銀町十番地
（前伏見町長跡）
電話（呼出）六五〇番

安價で效果的な天然加里肥
最も適應する作物!!
蔬菜、馬鈴薯、里芋、しやうが類
◎茄果類ではトマト、茄子の如き比較的病害に弱い作物に施用すれば抵抗力を與へ落果を防ぎます
天然加里肥は酸性でないから
◎如何に施用しても土壤を惡變する虞は絕對にありません
一俵 參拾錢
（大量取引は特に割引致します）
製造販賣 金成國雅
平町鎌田 電話六八八

トラック
貨物自動車の御用命に應じます

日本に唯一つ
魂の這入つた
東京工場聯盟の自轉車
指定販賣所
フタバ商會
平。新川町。橋際

恐ろしい疫痢の流行期!!
○毎年六月始めより十月と申します。
○死亡率統計百人中六十五人以上として居ります。
まづ豫防に經口免疫の
北里研究所製造疫痢內服ワクチンを
○價格 幼兒一人分 三十錢 大人一人分 五十錢
（文献進呈）
特約店 西村屋藥局
平 二。電3

耳、鼻、咽喉科
氣管食道科 專門
平町南町 （電一〇七番）
大和田醫院
大和田郡司
（自炊の便あり）

完全燃燒のため煙筒掃除の要なき
日本一の……
フクロク・ストーブ
御申越次第カタログ持參御伺ひ致します。
發賣元
㊇ 釜屋商店 平町五丁目 電話九番
㋡ 阿部石炭商店 平驛前 電話三七番

歳末狂ソウ曲をよそに 朗かな綴驛の數字點景

素晴しい近來の躍進振り

今春來の需要増大に附近産出炭の搬出輸送を一手に引き受くる綴驛は日毎雪崩れ込む大量の黒ダイアを後から／＼消化する素晴らしい胃の腑である、その痛快な健啖振りを最近の統計によつてクローズアップして見やう、泣き言づくめな歳末狂操曲中断然朗かな數字點景である（括弧内増加率）

去月中の貨物の發噸數は十三萬四千五百七噸その收入二十八萬四千百七十二圓九十四錢で去年の十萬一千六百九十五噸（二割五分）收入二十萬一千五十七圓十九錢に比すれば三萬三千八百十二噸、收入八萬三千百十五圓七十五錢（二割九分）の激増此に動員した貨車使用數は一萬三百十三車で昨年の七千五百三十車より二千七百八十三車（二割七分）の激増

乗降は減少

同様去月中の乗降八千四百八十六人で昨年の九千三百四人より八百十八人、降九千二百五人で昨年の九千八百七十三人より六百六十八人の何れも減少を示した

本年八月以降の 國税滞納三萬圓

調定額の八分强

平税務署管内に於ける去る八月以降十一月までの國税調定額は三十七萬一千四百九十圓（人員三萬五千三百九十六名）中納入一萬九千四百八十八圓（人員千三百二十六名）で未納は鑛業税の一萬四千十四圓を筆頭に總額三萬二千二百八十二圓（人員八百九十九名）で唯野署長を初め滞納防止に當つて居ると

大正二＝三年生れ 届出を怠るな

町役場から適齢者へ注意

平町役場では今十四日明年徴兵適齢者（大正三年十二月二日より大正二年十二月一日生）に對し左記事項に留意して明年　月十五日迄に届出づる様通牒を出した

一、師範學校卒業者は短期現役兵として明年二月徴兵検査を受くべき者に付該當者は直に届出を要す

一、在學（中學校以上）の爲徴集延期を願はんとする者は昭和九年四月十五日迄に在學徴集延期願（在學證明書添付）を差出すこと

一、帝國外の地に在るものは明年一月末日迄に在帝國外徴集延期願を在留地領事館若くは在外公使館に提出を要す

一、前二項該當者は其の旨適齢届に記入、特に十二月中に届出つること

一、寄留地に於て身体検査を受けんとする者は一月三十一日限寄留地の兵事官又は市長に寄留地受検願を寄留地市町村長に差出すべし

一、徴兵適齢届出後記載事項に異動を生したる場合は直に其旨届出つること

年賀郵便は早く

斯くするが相互の利益 と＝局側の希望

平局では例年の通り來二十日より二十九日迄年賀郵便物の特別取扱をするが本取扱の郵便物は一月一日最初の日印附を用ゐて夫々配達局へ發送し置き元旦の最先便より配達を開始する順序で其趣旨は年賀郵便の速達を圖ると共に郵便局の繁忙を緩和し此の期間に於て尚ほ一層生じ易き遅延誤達等の錯誤を防止する目的に外らないと、尚差出は成るべく一日も早く左記事項に注意の上差出され度いと

一、特別扱に依らざる不利益、一般の手續に依る結果新年以前の日附印を使用せられ近距離に宛てたるものは年内に配達せらるゝが如き事になる

二、府縣名冠記、宛名は明瞭に府縣名を冠記し東京市、大阪市の如き市區域に宛つるものは必ず新區名を記入し又驛に宛つるものは何々線何々驛とせず之又府縣名を附記すること

三、官公署軍隊、學校宛、兎角所在地を省略する慣例あるも所在地を取調る爲め時間を要するので必ず所在地名を記入すること

四、年末年首に於ける急ぎの通信、廿九日、卅日、卅一日及年首の數日間は一般に郵便物幅湊し遅延を免れぬから至急を要する通信は可成書狀とすること、書狀は新聞紙と共に最先に取扱はれる

五、贈答用小包、成るべく早く差出すこと

六、門標の揭出、此期間には臨時に配達夫を使役する關係上誤配達等の事故防止の爲めにも各戸洩れなく門標を掲出せられ度い、もし門標ないと配達者が調査の爲遅延するばかりでなく他人へ迄迷惑を及すことが有る

昭和八年の回顧

（六月の巻）

（一日）淸水宮城控訴院長一行來平視察。胡麿澤の鈴木政雄氏一家より四名の軍人を出して表彰さる縣主催地方農事協議會を團体事務所で。木炭檢査縣營に移る。飯野村議改選　（二日）義敎費臨時國庫補助郡下交附額三一、七八〇圓　（三日）郡下女敎員總會を第二校で。小名濱の運ちやん茨城で小兒を轢く。五丁目の酒井三男（三）君着衣の儘躍り込み溺兒を救ふ（四日）野球戰に磐炭古河平商を破る。驛關係野球戰に春日軍捷つ。赤井の酒ずき千鳥足で冥土へ急行。上遠野村議改選（五日）本社で炭鑛小唄募集。少年坑内稼ぎ期限を今後二年間猶豫と官報で公布。磐跡敷地愈々町有に編入。對第一校籠球戰に磐女軍捷つ（六日）第三校で郡下小學校教務主任會。六丁目に火事三棟六戸を燒く。磐陽野球組合をマルトモでの主將會議で決定（七日）今日の降雨量坪當り三斗五升一合三六正に慈雨（八日）土木委員會で各間道改修決定。内郷村議戰會場に殺到無効票検分を要求して藤咲一派五名留置。新田前に火事（九日）第三校増築工事入札。捨子戀しさに江名の吉田きく子其筋へ涙の願（十日）時の記念日各種催し。今明日第五回磐陽野球戰（十一日）内郷宮の大工髙橋寅之助（三〇）同情帳で面會を強要し檢擧。平農業倉庫の共販　（十二日）湯本町議戰。盗少年を操つた蔭の男内郷髙坂の根本角彌（三七）送檢拘留（十三日）磐中下体操講習。小名濱疑獄事件公判被告の一人犯行を否認。第三校の増築入札丸山組へ落ち一萬二千三百八十圓。炭界好況に磐炭、入山で坑夫募集　（十四日）小名濱疑獄事件公判續行　（十五日）機關庫を中心とする町議選擧違反に留置者三名。磐中保護者評議員廿九名決定。澤渡の安藤ツメノ（二六）不具を悲觀家出（十六日）小名濱町議戰、平穩（十八日）磐陽野球戰入山勝つ　（十九日）各地の繭取引出廻り郡下で約五千貫。今日の降雨坪當り六斗五升　（二十日）小名濱疑獄事件第二回續行公判　（二十一日）勞働法最初の慰籍料請求解決、（二十二日）二丁目鍋嘉の倉庫破らる。小川江筋委員間の確執、代表者出發（二十三日）内郷の選擧異議村會で否決され縣參事會へ訴願（二十四日）平の選擧違反七名に罰金（二十五日）吉田禮次郎氏長逝。險の兄を尋ねて鮮人金次郎（二五）早大生と詐稱し賭博資金を貰歩く永戸の熊谷武雄（三五）平署に檢擧。濱三郡中等校リーグ野球戰を双中球場で平商、磐中共に快捷。國運進展に貢献と郡下小學校敎員總會で宣言（二十七日）吉田氏葬儀。川中子の植木屋を襲ふた老強盗豫審終結。磐崎の選擧違反に罰金。三原行を撤回の仙臺の男女平驛から追返す。好間村議戰（二十八日）管内消防の不良分子を一掃。選擧違反公判川部村議戰（二十九日）湯本出身の若松大尉の歡迎會及時局座談會。植田町議戰。玉川村議戰（三十日）濱三郡小學校長會議を第三校で。小名濱疑獄言渡し樽木氏懲役一年

。。。。盲院補助申請　財團法人磐城訓盲院は先般縣立代用校となり目下縣立移管の奔走中であるが明年度二百五十圓の町費補助方を今十四日町當局に願ひ出た

臨港重要道 路縣編陳情

四倉町代表出縣

四倉町では昨十三日午前十時から町會を開き臨港重要道路（海氣館前延長百七十間）縣道編入の件を決議し之が陳情の爲新妻町長外議員數名は同日午後二時出縣した

第一校劍道部發會式

昨日盛況裡に擧行

第一校の劍道發會式は昨十三日午後二時から同校講堂に開かれたが多田井學務委員、藤井平商師範等來賓多數校長の開辭に次いで、君が代を合唱、校長の訓辭、來賓井上保護者會長、鈴木學務委員、桐原英純諸氏の祝辭、特別演武師範井上二段、横田初段の大日本帝國劍道型、代表兒童の基本動作練習、各師範の模範試合あり校歌を合唱して閉會後幹事來賓理科室に參集懇談批評の茶菓會を催した

一升賣りに割引 酒造組合の評定

昨今漸次具体化す

石城郡酒造組合評議員會は此程平税務署樓上に開き組合長四家又一氏外十五名出席過般設けられた縣産清酒愛護會に於ける實施事項として毎月十日一升賣上げ毎に一割引販賣に就き協議したが實施は大体來春一月からであると

平商級長任命

平商では昨十三日同校の後期正副級長の選擧を行つたが今朝朝會に於て左の如く任命あつた

一年甲組―（正）齊藤重雄（副）長瀬泰輔、同乙組―（正）松島精（副）會田長太郎、二年甲組―（正）賀澤定雄（副）佐藤久右工門、同乙組―（正）黒川壽三（副）金成新一郎、三年甲組―（正）大高正己（副）岡田彦太郎、同乙組―（正）齊藤一夫（副）内海實、四年甲組―（正）木幡八十八（副）緑川泰次、同乙組―（正）木田英夫（副）草野忠悟、五年―（正）四家銈（副）長瀬修造

平青年團資金造成 發聲映畫と漫談

今夜聚樂館の盛況豫想

平青年團資金増成『トーキーと漫談の夕』は今十四日午後六時から聚樂館で催すが先般來會員劵の前賣と附近在郷軍人の團体申込に各學校生徒の觀覽等もある模樣で盛會を豫想されてゐる尚當夕は映畫には東日作非常時陸相荒木貞夫氏が一時間半に亘る講演をフヰルムに收めた陸軍省後援國民必覧必聽の全發聲版『非常時日本』その他にトーキー漫畫『お猿の大漁』『ベティの屋上庭園』サウンドニュース『海國日本の偉容』『北海を行く』『拳闘とレスリング』等あり漫談には帝都斯界に於ける第一人者西村樂天氏の『躍る非常時滿蒙第一線を突破して』を推して愉快な然かも意氣ある一夕を過させるといふ

同情週間活動開始

平町内の救濟該當者 八十六世帶三百卅七名

平町役場では明十五日より一週間の歳末同情週間に際し該當者八十六世帶、三百三十七名を救濟すべく昨日町内一齊に同情袋を配布し明日から四日間共濟會委員が戸別訪問をなし金品の寄附勸誘を行ふ事になつた

修養會講演會

平町教育者よりなる修養會は來る十六日午後二時半から第二校で催されるが當日は在米三十年最近シャトルより歸郷された酒井艶治氏の『米國より見たる日本』と題する講演がある

未だ見ぬ母を捜す

大和田ハルが唯一の手懸り 薄倖の娘平署へ哀願

群馬縣佐波郡伊勢崎町字南町三丁目瀬間藏八方大和田トミ（三二）は十五、六年前平町に住んで居たが其後父母と別れその生死さへ知れず母の名大和田ハル（四十五六才）を唯一のたよりにして昨十三日平署に捜査方を願ひ出た

。。。。助成會へ寄附。　平町四丁目組合納税管理者松本愛三氏は今十五日役場に出頭平町助成會に二十三圓を寄贈した

直にパンに響く 「床屋さん達の試驗」

けふ平署で執行

試驗合格者以外に開業出來なくなつた理髪業者に對する新法緩和の機關として縣では去る十日より平署會議室に於て理髪衛生講習會を開催したが生活關係事だけに出席者は毎日三百十名の滿員振りで最終日の今十四日は縣衛生課緑川警部外講師三名に依り生理、消毒、取締法規の三分間試驗を行うた

五丁目地先 泥濘難緩和

平町道路鋪装

平町道路鋪装の前提たる側溝工事の五丁目分北側百五十米ははや九分通りの進行を見て居るが同町は道幅が非常に狭く地盤軟弱な爲區民は泥濘受難に顔を顰めて居たので町では昨十三日から砂、小石を敷き初めたので何れも喜んで居る、尚長橋地内も大部分出來上り年内には竣工すると

。。。。驛員惠比須顔

明十五日賞與支給

他官廳に比し斷然割合のよい平驛のボーナスは明十五日一齊にパラ撒かれるが割合は後藤驛長の二十割を筆頭に判任官十六割、雇十三割、傭人八割でこの總額四萬餘圓、翌十六日は引續いて傭人級、十七日は雇員級の昇給があると

自動車体檢査好績

平署管内

乗合自動車々体検査は去る七日から十二日迄行つたが今回は改正規則により嚴格に行つたに反して受驗車千五百台中四ヶ月以内に改造を命ぜられた車が僅か一台と云ふ好成績を示した

。。。。暦本頒布通牒。　平町役場では其筋からの通牒により町内各戸に神宮大麻及暦の頒布方を今十四日各區長宛通知した

。。。。農産品評會。　平、神谷兩農會主催の農産品評會は明十五日より三日間神谷小學校で開くが出陳百餘點で入賞四十點に上る見込みであると、尚ほ大野村農産品評會は來る廿二、廿三の兩日同村第一小學校に開くと

。。。。鎌田案内揭示。　平町鎌田町では一般の便宜を圖る爲此程町内數ヶ所に町内案内を設置した

。。。。内郷補校開始。　内郷補習學校は一昨十二日夜より授業を開始生徒七十餘名である

。。。。鎌田夜警所新築。　平町鎌田町では近く三百餘圓を以て夜警詰所を新築する

平驛講演會　平驛では來る十六日午後六時半より俱樂部に於て經濟學博士阿部賢一氏の『時局と國民精神』と題して二時間半の講演會をなすと

。。。。平第三小學藝。　今十四日午前九時から催した

。。。。松本所長出福。　穀米檢査所長松本氏は明十五日福島で開催の穀物查定會に出席のため今十四日午後二時十五分發で出發した

。。。。齋藤主事渡滿　渡滿の平局電話主事齋藤常雄氏は都合により今十四日午後三時二十三分發多數見送裡に出發した

。。。。平局謡會。　平局で明十五日谷口樓に於て伊藤島之助氏を招き觀世流謡會を催すが會員二十餘名である

。。。。學用品記名檢査。　平商では昨十三日全校生の學用品記名檢査を各組主任によつて行つたが成績頗る良好であつた

。。。。デコ舟大破。　小名濱町字古港一四五小野慈之助所有俗稱デコ舟は昨十三日江名町中の作字長田五、六丁の沖合で坐礁し船体大破したが幸ひ船員の死傷なかつた

。。。。隔離。　江名町中の作字長田町一〇漁夫澤村二郎（三三）は昨十三日腸チブスと決定隔離された

。。。。密漁。　豐間村薄礒四九漁夫鈴木源右工門（三七）は江名町大字中の作字植作一吉田安吉氏所有發動機船第三權現丸の船長代理として從事中去月一日禁止漁區である茨城縣久慈濱沖合で底曳網を使用して『キス』約三貫匁を漁獲し去る十二日平區中島判事より安吉に六十圓、源右工門に五十圓の略式罰金を言渡された

。。。。鼠賊。　川前村五林澤疊職佐々木利元（三三）は今月初旬三井物産工事場より銅線三貫匁（價格）十圓を窃取情を明かしてこれを平町胡摩澤古物商小曾野菜に賣渡した事發覺今十四日檢擧さる

景氣は良く成つた

此處に三十圓か、五十圓位の小資本にて、毎月五十圓から百圓以上の利益の擧る絶對に損をしない、確實有利な、而も年中無休にて至極高尙な營業があり。來りて實地に就き説明を求められよ時は今、活躍の時季躊躇して悔を後世に殘す勿れ、進歩向上、奮闘の士は早速來れ、人員に限りあり

姓名在社

開業廣告

一、婦人子供洋服教授
米國シヤードル裁縫　ニユーヨーク裁斷　學校卒業

一、玩具、文房具、雜貨

平町驛前（新道通りマルカ書店跡）
デパートストアー酒井商店

祖母馬目なは病氣加療中ノ處藥石効無ク十三日午前九時永眠致シ候間此段謹告候也
追テ葬儀ハ十五日午後二時自宅出棺清光院ニ於テ佛式ニヨリ相營可申候
昭和八年十二月十三日
石城郡内郷村
馬目太平治